

「開業医における定期検診の実態について —データをまとめて—」

小児歯科やまぐち

山 口 昭 一

小児歯科における定期診査の目的は、定期的な管理の下で、齲蝕、歯周疾患、歯列の異常などに対して適切な予防、早期の治療をおこない、健全な口腔の成長発育を手助けすることで、小児歯科臨床の大きな柱です。

一方、医院経営の観点からも、定期診査の実施によって患者数を確保することは、齲蝕の減少や出生率の低下などから患者数の減少が避けられない現状としては、今後増々重要になってくると考えられます。

私自身も日々の臨床で定期診査をおこなっていますが、定期診査の難しいところは、その目的を達成するためには、何年もかかるということです。定期診査は続けなければ意味がありません。“虫歯がなくて、きれいな歯並びになりたい”という情熱をずっと持ち続けてもらわなければなりません。そのためには、どんな情報を、どんな形で子供とその保護者に提供すればよいのでしょうか。“定期診査を続けて良かった。”と一言でいただくためには、どうすればよいのでしょうか。この機会に考えてみたいと思います。

今回、日本小児歯科開業医会において実施した平成4年度の診療報酬改訂についてのアンケートの中で、小児歯科開業医における定期診査の実情を調査したので、その結果を報告し、併せて開業4年目の私の医院のデータについても分析を加えて、現在の小児歯科開業医における定期診査の重要性や問題点について考えてみたいと思います。